

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート有限会社		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505番地5		
自己評価作成日	平成24年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は山と田んぼに囲まれておりのどかな場所にあります。2ユニットあり、16名利用所の個々の生活リズムを通し日常生活において一人一人残存機能を生かした援助をするようにしています。本人の願いをよく聞き事で安心と信頼のある生活ができるように努めています。そばに寄り添うことで安心して穏やかに毎日が楽しく生活ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しい代表者と管理者、職員が一つになり、開設者の認知症介護に対する強い思いを途切れさせたくないとの思いが伝わる事業所です。地域の住民とのかかわりが強く、運営推進会議の場でも、ご近所の方が「事業所から聞こえてくる声を聞いてみると元気が出ます」と言われるような本場に地域とともに活動して来られた施設です。職員もまた地域の清掃活動等に積極的に参加するなど努力されています。入居者に対する尊厳やプライバシーへの意識が徹底しており、家庭的な環境のもとでその人らしい生活を大切に支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所時、アセスメントをして、その方の生活歴の把握を行っている。理念に沿った介護をするように毎月のミーティングで確認している。	理念を基にした援助に取り組むため、常に職員と話し合いの場を持ちながら、理念に沿ったケアを実践されていました。理念を玄関に張って常に目に入るようにしています。	開設から8年がたち、職員の意見も取り入れながら理念を検討され、新たな目標に向われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩やお大師参りの時、地域の方と挨拶したり、声かけをしていただいたり、お祭りに参加して地域の方と交流している。	入居者と一緒によく散歩に出かけ、近所の方と顔見知りの関係が来ています。地域の活動・行事にも地域の一員として参加し、日々交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のときに、地域、民生委員の方に参加していただき、実情を話し、理解や協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実情を報告し、地域の方の意見も参考にし、日々の介護に生かすようにしている。	ご家族全員に運営推進会議開催通知し出席依頼をしている。自治会長、民生委員、市の担当者も毎回出席し、地域での認知症に対する理解に取組み援助の向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度の介護サービス事業者連絡協議会に参加し、情報等を密にするようにしている。利用者の空き状況等の情報交換もおこなっている。	2か月に一回事業所の入居状況を報告し、市から入居者の紹介もあります。市の担当者が変更になっても、市役所に度々足を運び挨拶をするように心がけ日頃から協力関係の取組が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人らしい生活が送れるように、日々管理者、スタッフは利用者とは話し、その方の望んでいる生活に近づこうとしている。また、どのようなことが身体拘束につながるかを、勉強会で職員同士で話し合う。	身体拘束の基礎知識は常に勉強会を実施し、職員全員が理解できるよう努力され、拘束しないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習参加はもちろんだが、常にそのようなことがないように、スタッフ同士がきをつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用した方がおられたので、これからも要望があれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に、十分な説明を本人、家族に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会、意見箱を設けて、要望をお聞きするようにしている。	家族が気兼ねなく話せるような雰囲気づくりに努めています。又、手書きで利用者の近況等、毎月手紙を送り良好関係構築に努力しています。入居者、家族からの意見、要望を直接書面で提出してもらい、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、全体ミーティングをして、職員の意見、思いを聞き、話あうようにしている。	職員会議にも必ず参加し、代表者自ら現場に入り、職員目線の立場に立った関係づくりがなされていました。職員の意見がダイレクトに代表者に伝わり運営に反映されていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、施設内の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会議に参加し、特養や他の介護サービス事業者との連携をとり、情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に面接して、なじみの関係になれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し、共感するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、思いをきかせていただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは自分でしていただき、できないところを援助するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは、連絡を密にし、一緒に本人の援助ができるよう、心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前に行かれていた、美容院へは今まで通利にそこへお連れする。近所のなじみのひとが、尋ねてきてくださる。	入居者のほとんどが地元の方で、地域との繋がりが強く気軽に声を掛けられています。神社にお参り、山菜を摘む等、これまでの暮らしの継続に努力をされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の間に座り、関わりが自然にできるように、会話やレクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添えるように常に対話をして、本人の思っている暮らし方にちかづけるように援助している。	入居者とじっくり話をする時間を取り、本人の思いを大切にした対応ができるよう職員が個別ケアに努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴や1番楽しかった頃の事等をお聞きし、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を本人に確認して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とケアカンファレンスをし、本人の状態をアセスメントし、前回のプランについてモニタリング・その方にあった援助目標を立てた後、家族に説明。同意を得るようにしている。	利用者の気持ちを大切にし、現場職員、家族の意見も取り入れ現状に合った介護計画作成に取り組まれていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り長を活用し、職員間で利用者の情報の周知に努めるとともに、定期的にカンファレンスを行い、変化があれば、見直しをして個々のプランを把握、統一した援助が実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の利用者のニーズに合わせて、できるだけサービスを提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方が、災害時の協力をして下さるようになってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月往診に来ていただいている。また、定期的を受診にも行っている。	家族、職員が互いに協力し合い病院受診に努力されています。往診なども利用しながら医療連携に取り組まれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の悪い方は、かかりつけ医に指示を仰ぎ、受診して早急な対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師さんとの情報を共有している。定期的に情報を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方は、家族や病院と連携をとり、支援していく。	現在までに、看取りは経験していませんが、家族から終末期の看取りについて相談・要望等があり、前向きに取り組んでいます。	事業所単体で対応するのはなかなか大変なことだとおもいますが、医療機関・家族等と連携し、本人の希望する終末期の対応に取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療マニュアルを作り、緊急対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域、近所の方にも声をかけている。	防災訓練の年間計画の内、夏と冬の訓練を行い、地域の方が避難訓練に参加されています。事業所と地元住民との協力体制が作られ、運営推進会議に於いて家族に緊急時の避難場所を伝え安全、安心に努めています。	火災の他、水害、地震など天災害の対策も、地域の方と一緒に継続的に避難訓練を行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いをしないように、利用者様にお伺いをして、本人の意思を確認してから対応するようにする。	入浴や排泄介助でのプライバシーへの配慮を基本とし、職員研修等でプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いをお聞きして、決定できるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を維持できるよう、無理強いはしないで一緒に家事等を手伝っていたり、ソファで一緒にくつろいで談笑したりして、ゆったりとした時間を共有するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、洋服を選んでいただき、着替えの支援をしたり、洗面所で洗顔、整髪の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼、晩とメニュー表に表示して利用者様にも、今日の献立の話をして、楽しみにしていただくようにしている。一緒に料理を作ることはしていないが、日曜日に手作りおやつと一緒に作ったりしている。	毎日の食事の下準備、おかずの味見、献立の話など食事を通して生きる楽しみに繋がる支援を実践されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態によって、食事を刻んだり、トロミをつけたりして食事を食べやすくして、栄養を摂るようにしている。水分は、お茶だけでなく本人の好きな飲料[ジュース、牛乳、コーヒー等]にて、確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、一部介助を行い、夕食後は入れ歯を洗浄剤につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々にあわせて、トイレ介助を行い、排泄のパターンをつかむ努力をしている。	日中は利用者一人ひとりのサインを見落とさずさりげなく声掛けでトイレに誘導し自立への支援に努力されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には、牛乳やヨーグルト等排便を促すような食材を摂取していただいたり、トイレに座ってもらい腹圧で排便を促すようにしている。状況に応じて、ポータブルトイレを使用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後から一人ひとりの体調を見ながら、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。	入浴介助は1対1で時間をかけゆったりとした環境づくりに努めていました。時間帯は自由に変動し余裕のある入浴支援が実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけをしたり、室温を本人様の好みに合わせている。また、本人の状態に合わせ、お昼寝をしていただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生の指示、処方箋をみて、薬の副作用や用法について確認するようにしている。また、飲み忘れがないように職員が管理して、そのつど、利用者の方に渡して全部飲まれるのを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな人には、散歩、ドライブの支援をしたり、そばにいてゆっくりと話を傾聴したり、家事援助が好きな人には、洗濯物をたたんでいただいたりする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのお大師様におまいりに行かれるときは、季節を感じてもらえるように、散歩をしたり、いきつけの美容院の支援等、できるだけするように努めている。	事業所の立地を生かし、散歩、山菜取り、栗拾いに出かけるなど日常的に外出されています。地域の皆さんとも普段から交流が盛んで、明るい挨拶が互いに交わされているようでした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が預けたお金は、家族に許可を取ってから、所持してもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、友人に手紙を書かれるとポストに入れたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や、季節感を取り入れて、居心地よく過ごしていただけるように援助している。	利用者が、心地よく過ごせるよう、職員のきめの細かい配慮が窺えました。大きな窓から見える風景が、利用者の心とむものとなっているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで談話されたり、新聞を読まれたり、スタッフと家事援助をしたり、各自自分のペースで生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのあるものや、写真等を持ってきてもらい、居心地よく過ごせるようにしている。	入居者の馴染み思い出のある備品を持ち込み、家族の協力のもと、個人に合った居室作りができていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がよくわかるようにしたり、季節を感じるができるように壁の飾りをしている。ホールに、写真を飾っている。		